



たもくてきゆうすいち なん 多目的遊水地って何なの

とし なか つく もくてき ゆうすいち 都市の中に造られた、いろいろな目的をもつ遊水地

ゆうすいち というのは、こうずい お かわ みず ひ いちじい りゅうりょう
遊水地というのは、洪水が起こったとき、川の水を引きこんで、一時入れておき、流量
の調整を行う土地や池をいいます。もともと、遊水地は、低い土地が選ばれており、川か
らあふれた水を、自然に導き入れるような仕組みになっているのです。

ゆうすいち つく ひろ とち ひつよう ゆうすいち のうそん ちいき
遊水地を造るためには、まとまった広い土地が必要です。ですから、遊水地は、農村地域
に造られることがふつうでした。

さいきん のうそん とし ぶ ゆうすいち つく とし ぶ ひろ
最近では、農村ではなく、都市部に遊水地が造られるようになりました。都市部では、広
い土地が用意できないので、工場あと地などを遊水地として利用しています。

とし ぶ とち りよう とか
都市部で土地を利用するとなると、できるだけ効率よく使うことをめざすことになりま
す。そこで、一つの遊水地を造るときに、多目的(いろいろな目的をあわせもったもの)の
施設にするわけです。ふだんは、こうえん かくしゅうん どうしせつ たてもの かい はしら
公園や各種運動施設、建物の1階は柱だけにした、ピロ
ティ型住宅などとして利用するわけです。

おお き ぼ ゆうすいち 大きな規模の遊水地

かわ おおあめ ぶ お おお かくち こうずいたいさく
日本の川は、大雨が降れば、はんらんを起こすことが多いので、各地でいろいろな洪水対策
がとられてきました。ゆうすいち けんせつ
遊水地の建設も、その一つです。

おお わたらせがわ とちぎけん ぐんまけん さいたまけん わたらせゆうすいち きたかみがわ いわてけん
大きなものでは、渡良瀬川(栃木県~群馬県~埼玉県)の渡良瀬遊水地、北上川(岩手県
~宮城県)の一関遊水地、最上川(山形県)の大久保遊水地が知られています。

(監修・保岡 孝之)

